

江島杉山神社の御神像について

大浦 宏勝, 市川 友理

北里研究所東洋医学総合研究所医史学研部

【緒言】平成19年7月22日、墨田区千歳1丁目にある江島杉山神社において、田部宮司様立合いの下、御神像の調査を行った。その中で、昭和27年9月の神社再建にまつわる多くの事実が判明したゆえ報告する。

江島杉山神社は、管鍼術の祖であり、日本鍼灸を代表する鍼医である杉山和一を祭った神社である。この地は、5代将軍綱吉より和一に賜った場所であり、元禄6年に和一の信奉する江ノ島弁財天を勧進して弁財天社が創建された。それゆえ、綱吉親筆と伝えられる「大弁財天」の掛軸が御神宝として残されている。またこの地は、後に盲人の互助組織である当道座の江戸惣録屋敷が置かれ、その中の鍼治学問所において明治4年までたくさんの盲人鍼灸師を育成した場所でもある。

【調査結果】今回調査した御神像は、3体ある。中央には彩色の弁財天木像、向かって左には素地の杉山検校木像、右には彩色の杉山検校木像である。中央と左の木像は、昭和41年1月18日に奉斎されたもので新しく、幕末の仏像彫刻の正流を継ぐ高村晴雲が作成したものである。右の1体は幕末、第13代将軍・徳川家定の幕府医官であった平塚検校が作成させたもので、自身の使用していた鍼管と金鍼を木像の左右手に持たせている。この木像は、平塚検校から弟子の河人俊悦に譲られ、再び弟子の加藤国太郎、さらに弟子で当時杉山検校遺徳顕彰会副会長であった姥山薫に託されたものである。昭和20年の東京大空襲により、御神像であった弁財天木像および杉山検校木像は消失したため、姥山氏の手により昭和27年神社再建に当たり御神像として奉斎された。この事は、生前の姥山氏から大浦が直に聞いた事だが、今回の調査により木像台座の記載との一致が確認できた。

I. 彩色八臂弁財天木坐像

- ①木坐像 [高さ36.0cm, 幅25.0cm, 奥行16.0cm]. 楠一材の一刀彫. 赤・黒・青・赤紫・白の彩色を施す。
- ②台座 [高さ8.1cm, 幅29.0cm, 奥行20.0cm].
- ③収蔵厨子 [高さ51.7cm, 幅35.5cm, 奥行32.0cm].

II. 無彩色杉山検校木坐像

- ①木坐像 [高さ33.0cm, 幅36.5cm, 奥行22.0cm]. 楠一材の一刀彫. 無彩色にて素地のまま. 坐像底に1穴あり, 内に胎内仏として, 小像を安置す. 収納厨子(素地)入り。
- ②黒漆塗り厨子入り彩色八臂弁財天小像 [高さ約10cm, 幅約5cm, 奥行約4cm]. 記録よりこの小像は、元禄6年この地に弁財天社が創建された当初に、5代将軍綱吉より杉山検校が拝領した「三尺二寸五分赤銅色八臂弁財天像」の、胎内仏2体の内の1体と判明. 本像は東京大空襲の際に墨になり、形のみ留めて別に安置されている。他の小像1体は、中央の弁財天木像胎内に安置されている。
- ③台座 [幅42.0cm, 奥行30.0cm]. 台座内に3冊の冊子本を所蔵. 1冊は『杉山検校尊像由来記』, もう1冊は河越恭平著『杉山検校伝』, そして『BULLETIN DELA SOCIETED' ACUPUNCTURE』.

III. 彩色杉山検校木坐像

- ①木坐像 [高さ20.0cm, 幅21.0cm, 奥行13.5cm]. 燕尾帽, 緋色衣, 紫袴. 左手に38mmの銀製円筒型鍼管, 左手に43.5mmの金鍼を把持. ②下台座 [高さ9.4cm, 幅29.8cm, 奥行21.3cm, 底に奉納者の名あり]. 上台座 [高さ2.5cm, 幅25.4cm, 奥行17.3cm]. ③収納厨子 [高さ68.5cm, 幅50.0cm, 奥行31.0cm]. 緋色彩色。

【まとめ】元禄6年の弁財天社創建当初には、御神像・赤銅色八臂弁財天木坐像(三尺二寸五分・黒塗厨子入), および杉山検校尊像(一尺一寸の木坐像, 極彩色・僧形燕尾冠・緋衣紋白袈裟・手に水晶の数珠を持つ・黒塗厨子入)が奉斎されていたが、昭和20年に消失. 現在、胎内仏2体と扁額「大弁財天」が当時の姿を伝えるものである。